

がんばる若手医師を全力でサポート

2013  
vol.1(創刊号)



Doctor's Career Support Shimane

オールしまねで若手医師を  
支援するための体制づくり

# キャリア形成の支援

充実した研修体制

医学生や研修医に向けた情報発信

しまね地域医療支援センター

# MESSAGE IGAWA MIKIO

しまね地域医療支援センター  
理事長 井川 幹夫  
(鳥取大学医学部附属病院)

## 医師を目指す皆さんへ

若手医師の皆さんは、診療、研究あるいは研修に忙しい日々を過ごされていることと思います。

「しまね地域医療支援センター」は若手医師のキャリアプランの実現を支援することを主要な目的として、平成23年8月に鳥根大学医学部と鳥根県に設置されました。平成25年3月に医療機関・医師会・鳥根大学・市町村・鳥根県等を会員とする一般社団法人となり、8月には、鳥根大学医学部キャンパス内に新築した「みらい棟」に事務所を構えました。

鳥根県の医療に大きく貢献していただいている鳥取大学(医学部)にも賛助会員として参加してもらっています。

当センターは、大学医学部附属病院、地域の医療機関を循環して高度医療、専門的な医療あるいは臨床研究を行い、さらに症例を経験しながら研修を積む、卒業後10年程度のキャリアアッププログラムの作成を支援します。このプログラムは若手医師の皆さんの意向を最大限反映したもので、プログラムの実行が可能となるよう関係機関と調整します。また希望に応じ県外研修あるいは海外留学も支援します。

あるいは海外留学も支援します。医師のキャリア形成において、卒業早期の期間は将来を決定づける重要な時期ですので、将来を見据えた研修を行うことがポイントとなります。

今後、地域医療を担う医師には、

真に地域医療を実践できる能力が問われる時代が必ず来ると思っています。当センターは、鳥根大学医学部の関係部門(地域医療支援学講座、地域医療教育学講座、卒業臨床研修センター、総合医療学講座、大田総合医育成センター、各臨床系講座)と連携し、さらに地域の医療機関、医師会、地方自治体がネットワークを形成して、また、鳥取大学等とも連携し、若手医師の皆さんが専門医あるいは医学博士の学位を取得し、地域を医療の側面からリードできるマネジメント能力を身につけ、さらに多様なキャリアプランを実現できるようにサポートします。

鳥根県の地域医療に貢献する

志を持つ若手医師の皆さん、ぜひ「しまね地域医療支援センター」に登録し、充実した研修プログラムにより医師としての基盤を形成してください。皆さんの参加を待っています。





岸 和子



谷口 栄作

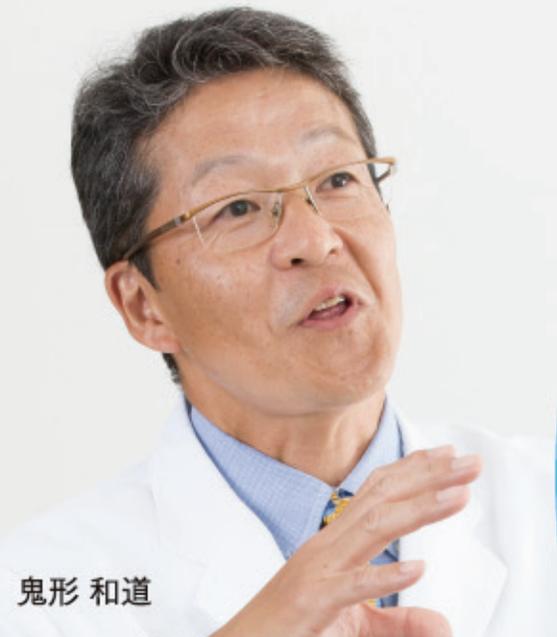
平成25年4月に医療機関、医師会、大学、市町村、県で構成する「一般社団法人しまね地域医療支援センター」が立ち上げられました。

支援センターでは、若手医師をはじめ多くの医師が、しまねの地域医療に魅力を感じ、将来に不安を持つことなく、県内で安心して研修・勤務できるように細やかなサポートを行っていきます。

大学と地域等が一体となり高度・先進医療や地域医療等を経験しながらキャリア形成できるよう、しまね全体で支援していきます。

医師にとって働きやすい、働きたいと思える魅力ある職場づくり・地域づくりを支援します。

皆さんがしまねでやりがいを持って地域医療に取り組むことができるよう、事業を展開していきます。



鬼形 和道



本田 聡



守田 美和



木村 清志

しまねをあげてサポートするよ。

オールしまねで  
若手医師を支援  
するのための  
体制づくり

Doctor's Career Support Shimane



「地域医療を志す若手医師のキャリア形成を支援」

# 医師のキャリア形成を 支援しています

しまねの地域医療に貢献する志を持った若手医師が  
県内を中心に安心して研修・勤務できるよう  
キャリア形成の支援を行っています。



全国に赴き面談を行います。しまねで働きやすい環境を整えます。



登録された医師と少なくとも年1回は面談を  
行い、個別のキャリアプランと一緒に作成してい  
きます。その後も継続したフォローアップを行  
います。

この面談は、堅苦しいものではなく、日々の研  
修・勤務での悩み事から将来のキャリアプラン  
まで様々なことを、専任の医師と和やかな雰  
囲気で話し合う場です。

県内はもちろん、県外で研修・勤務をされて  
いる先生方でも、専任の医師が全国へ訪問しサ  
ポートします。

お気軽にご連絡下さい。

## まずは登録から

登録していただけるのは、島根の医療に興味・関心がある  
若手医師、研修医、医学生（6年次）の方となります。  
初期研修の先生から後期研修終了後・県内外で勤務されて  
いる先生まで広くサポートします。登録をお待ちしています。

ぽちっとな...



しまね地域医療支援センターへの登録はこちらへ

<http://www.allshimane.jp/>

### しまねに軸足を置いたキャリアプログラム例

- 1 本人の希望を反映したプログラムの作成を支援
- 2 プログラム参加医療機関の指導医の協力を得て、継続的にサポート
- 3 プログラムへの参加は、キャリアや年齢を問わず、いつからでも可能

しまねに軸足を置いて、ローテートするキャリア支援プログラム(例) 本人の希望を尊重した、国内外研修(高度・最先端技術の習得)

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
研修施設	初期臨床研修 県内病院	大学病院	後期研修 大学病院	地域病院	地域病院	大規模病院	大規模病院	県外病院	県外病院	地域病院(地域診療所)
資格等				認定医取得	認定医取得			専門医取得	専門医取得	専門医取得

※先述に示した勤務先調整

幅広い診療能力を養成  
高度な医療、多様な症例などを経験する専門研修

指導的な立場で後輩を育成

## 皆さんの様々なニーズに お応えします。

研修医の皆さんのニーズに合わせて、専門医資格の取得等ができるキャリアプログラムの作成を支援します。本人の希望をもとに、研修先・勤務先の調整や、県内外・海外での研修機会の提供を行います。





レジナビフェア2013in大阪

**病院合同説明会等の開催・参加**  
 しまね研修ナビの開催や、関西圏等で開催される研修病院説明会へ、オールしまねで参加します。  
 また、医学生や研修医、先輩医師との交流会などを開催し、研修内容や病院の雰囲気など生の情報を得ていただく機会を設けます。

**多様なメディアを活用した情報発信**  
 ホームページや情報誌の発行、各種雑誌等を活用し、大学や医療機関等の取組を発信します。また、島根大学医学部の同窓会等と連携し、県外で活躍されている島根大学出身者の皆様などへのPRやネットワークの構築に努めています。



あれもこれも

**フェイスブックはじめました**

当センターの活動を広くPRするためにフェイスブックも立ち上げました。是非一度ご覧ください。



**研修医が多く集まるよう  
 情報を発信しています**

県内外の医学生や研修医等に対して  
 県内の病院の魅力や島根県に軸足を  
 キャリアプログラム等をPRし  
 県内で研修・勤務する医師を増やす取組を行います。



しまねで研修を!



島根大学医学部みらい棟臨床研修室「ギャラクシー」



つながろう!



**研修体制の充実に向けた  
 支援を行います**

研修体制の充実を図るため  
 大学、研修基幹病院、地域の中小規模病院、診療所等が  
 連携して行う若手医師育成の取組を支援し  
 魅力アップを図ります。

**研修ネットワーク支援**

総合診療医の育成のためのネットワークなど研修体制の充実・支援を図ります。  
 また、県内の初期研修医や将来しまねで働きたいと思っている県外の初期研修医等が連携を深めるための交流会を開催するなど、若手医師のネットワーク化を図ります。

**セミナー・研修会の開催**

島根大学医学部の地域医療支援学講座や卒後臨床研修センター等と連携して、セミナーや研修会を開催します。

**TV会議システムを活用した研修**

TV会議システムを通じて大学と地域の医療機関等と結ぶことにより、県内どこにいても、勤務する病院、あるいはその近隣の病院においてセミナー等が受講・聴講できるようにするなど、研修機会の拡大を図ります。

研修体制も  
 しっかり!



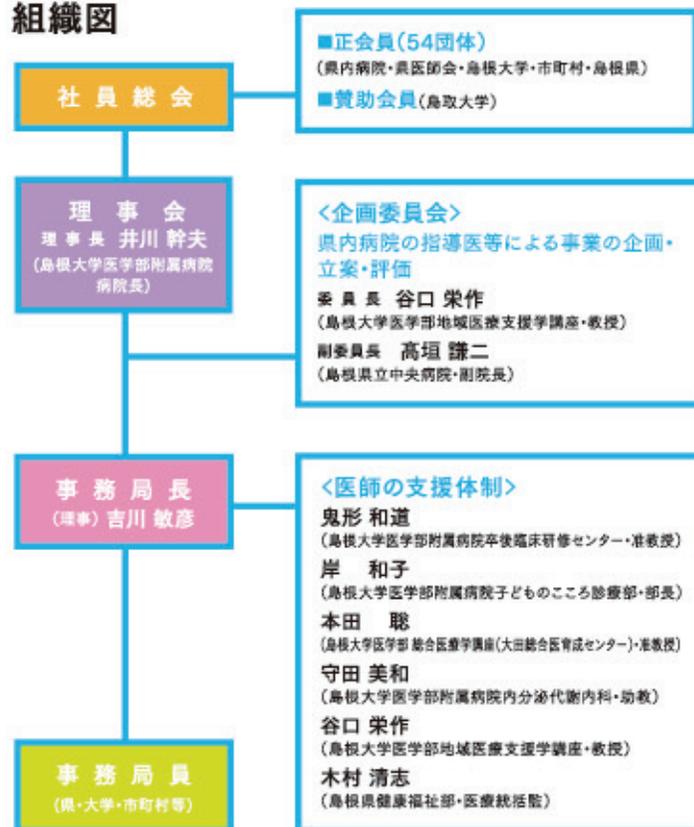
# 関係機関との 連携体制を構築 しています



しまね地域医療支援センター企画委員会

## 一般社団法人しまね地域医療支援センターの概要

### 組織図



## 役員名簿

役職	氏名	所属・役職名
理事長	井川 幹夫	国立大学法人島根大学医学部附属病院 病院長
副理事長	中川 昭生	島根県健康福祉部 医療統括監
理事	田邊 一明	国立大学法人島根大学医学部附属病院卒後臨床研修センター センター長
	谷口 栄作	国立大学法人島根大学医学部地域医療支援学講座 教授
	秦 公平	松江赤十字病院 院長
	大谷 順	雲南市立病院 院長
	中山 健吾	島根県立中央病院 病院長
	西尾 祐二	大田市立病院 院長
	石原 晋	公立邑智病院 院長
	石黒 眞吾	独立行政法人国立病院機構浜田医療センター 院長
	木谷 光博	益田赤十字病院 院長
	小出 博己	隠岐広域連合立隠岐病院 院長
	加藤 哲夫	島根県医師会 顧問
	竹腰 創一	島根県市長会(大田市長)
	山崎 英樹	島根県町村会 前会長(飯南町長)
	木村 清志	島根県健康福祉部 医療統括監
吉川 敏彦	一般社団法人しまね地域医療支援センター 事務局長	
監事	大田 宣弘	島根県社会保険診療報酬支払基金 医療顧問
	吾郷 紘一	吾郷紘一税理士事務所 税理士

平成25年9月1日現在



# ワークライフバランスを 推進しています

近年増加傾向にある女性医師が  
出産・育児などにより  
就業継続が困難な時期であっても  
仕事と家庭の両立ができる環境整備を支援します。  
すべての医療従事者にとって  
働きやすい職場環境の実現を目指します。



働きやすさが  
続けやすさ!



**働きやすい病院づくり研修会**  
働きやすい環境を整備するため、離職防止や  
再就業の促進などに関する具体策について先進  
事例などを学びます。

**医療従事者支援担当者連絡会**  
(ワークシヨップ)  
しまねの地域医療を守り育てるため、医療機  
関・大学・医師会・住民・行政等が、地域医療の現  
状と課題を認識し、連携しながら地域に根ざした  
取組を推進できるよう、キーパーソンとなる医療  
従事者支援担当者の人材育成を図ります。

**しまねの  
ワークライフバランス  
支援体制構築**

医師の離職防止や、職場復帰を支援するた  
めに、オールしまねでの相談・復職支援体制を構築  
していきます。



国も推進して  
おんだま。

その他にも

## 医師不足状況等の 把握・分析

島根県の地域医療に関する調査・研究事により、医療状況の把握・分析を  
行っています。県内の病院等勤務医師実態把握、関連機関と連携した医師や  
研修医の情報などを収集し、医師支援に活用しています。

島根県立中央病院



松江赤十字病院



ALL SHIMANE ENJOY CAREER

松江生協病院



浜田医療センター



しまねで輝く  
研修医のみんな



益田赤十字病院



松江市立病院



島根大学病院

## 守田 美和

(鳥根大学病院内分泌代謝内科・助教)

鳥根医大卒、2002年鳥根大学病院研修医時代は「病院が楽しくて休むのがもったいない」と感じていました。03年松江市立病院ではチーム医療の重要性を実感。04年雲南病院ではがむしゃらに働いた1年。05年～鳥根大学病院内分泌代謝・血液腫瘍内科で糖尿病診療の難しさに気づきました。07年東京女子医大病院糖尿病センター臨床研修生となり、学ぶチャンスの多さに圧倒されました。しかし、チャンスは鳥根にも沢山ある事に気づいていなかっただけでした。08年鳥根大学病院内分泌代謝内科で1型糖尿病サロン(1型糖尿病患者さんの集いの場)を始め、今年で5年目になります。09年～鳥根大学病院助教として院外の仕事や役割が増えてさらに楽しくなりました。

- コロとシロ(犬と猫 すごくかわいいです)
- 起きてから家を出るまでの準備の早さには自信があります
- 太い指
- 患者さんと同じ方向を同じ目線で見る事ができたと実感した時
- 「あなたらしさ」を生かせるようなサポートをしたいと思っています。

## 鬼形 和道

(鳥根大学病院 卒後臨床研修センター・准教授)

鳥根医大卒、1985年群馬大学病院研修医時代は毎日医局で過ごしていました。86年国立高崎病院、87年群馬県立小児医療センターでは昼も夜もない新生児医療を体験。88年～原町赤十字病院では1晩に7名の入院患者の経験あり。90年群馬中央総合病院では、ノレーポール大会で優勝、前橋祭で御輿の台車にひかれ負傷しました。91年国立沼田病院、91年～群馬大学病院小児科で甲状腺ホルモン受容体の研究と内分泌専門外来も開始しました。95年～同病院(助手)では遺伝子診療部兼任、学位取得、ベストティーチャー受賞、そしてGCP受賞賞。2007年The University of Chicago (Research Associate)では甲状腺研究に没頭でき、異文化を味わい、そして内省する時間を持ってました。08年鳥根大学小児科の山口教授から、「うちへ来ないか?」と誘われ、09年～鳥根大学病院小児科講師で後輩に回された空間と時間を大切にしながら楽しんでます。11年～鳥根大学病院 准教授

- 前傾姿勢、プレゼンテーション、コミュニケーション、バスタ、コストパフォーマンスの高い白ワイン選び
- イタリアのレストランをほしごしたい!
- 受け持ち患者さんの結婚式に出席3回(全てが女性)全国の仲間からの問い合わせ
- 前傾姿勢を取ると風が気持ちよい、後輩に魅力を伝えられる人を育てたい。

## 谷口 栄作

(鳥根大学医学部地域医療支援学講座・教授)

鳥根医大卒、1985年鳥根県立中央病院で自治医大の先生方と一緒に研修しました。1986年～保健所で健診活動や生活習慣病予防教育等通じて予防活動を実践し、医師以外の医療従事者や住民のバワーに驚き、そのマネジメントについて学ぶことができました。1996年～隠岐島前地域の医療の確保・県西部医療・医師確保等医療の充実のために何をすればいいか、今の社会資源の活用方法、不足している社会資源のエンパワーマETHOD等を考えるいい機会になり、マネジメント能力に磨きをかけることができました。その過程を通じて、多くの医師や地域医療関係者等と地域医療、医療政策について意見交換することができました。2010年～鳥根大学医学部地域医療支援学講座 教授

- 老後に向けての趣味探し
- 人類の進化のプロセスを見る。
- 大きなゴールは小さなゴールの積み重ね。大きなゴールに向けた小さなゴールを設定することで、常にやりがいを持つ仕事ができること。
- 歴史は医療界に常に新たな問題を投げかける。それを前向きにとらえ解決する力を身につけてほしい。

## 岸 和子

(鳥根大学病院子どものこころ診療部・部長)

鳥根医大卒、1985年鳥根大学病院で同期3人の小児科研修医と助け合いながらの楽しい研修でした。86年津和野共存病院では初めての全科当直に緊張。87年小倉記念病院小児科でカリスマ医師故古庄史京都大元教授のもとで感染症、喘息、白血病など種々多様な疾患を経験。88年鳥根大学病院小児科、結婚、故古庄先生の影響で2年間は喘息・アレルギー外来を担当。89年第1子出産。90年鳥根大学大学院、てんかんの研究。92年第2子出産。指導医の配慮で日勤帯で完結する実践系で研究。94年学位取得。研究の重要性と難しさを痛感した大学院生活。第3子出産。95年育児休業。隠岐ライフを満喫。98年～国立療養所松江病院小児科で重症心身障害児、筋ジストロフィー医療など障がい児医療の実際を学びました。04年～鳥根大学病院で小児神経診療に従事。07年～鳥根大学病院子どものこころ診療部で小児科神経外来を担当、精神科医師、心理士と連携して、心身症、発達障害、不登校などの診療にあたっています。

- 本を読みだすと、本の世界にすぐに入り込んでしまうこと。(乗り物に乗り・降り遅れそうなこと敬知れず)
- あんなに手を焼かせた子どもたちが、立派な大人になっていくこと。
- 医師は大変ですがやりがいがある仕事です。どのような形でもいいので、医師として社会に貢献し続けてほしいと思います。

## 木村 清志

(鳥根県健康福祉部・医療統括監)

自治医大卒、1981年～鳥根県立中央病院で多科ローテーション研修を受けました。83年隠岐病院内科で初めて地域医療に挑戦しました。1984年県立中央病院第一内科で消化器科のトレーニングを受けました。85年～鳥根県成人病予防センターで数多くの消化器内視鏡、造影検査を経験しました。88年～掛合診療所、隠岐島前診療所(中山間地、離島)で在宅医療なども学びました。94年～県立中央病院の総合診療科の立ち上げに関わり、研修医・医学生に対する教育も開始しました。2003年～現在鳥根県健康福祉部に在籍し、医師を「呼ぶ」「育てる」「助ける」を3本柱に鳥根県の医師確保、医療確保に携わっています。

- 知り合った方のプロフィールを覚えること
- 戦国時代の武將と話したい
- 困った人を放っておかないところ
- 椅子の上でも胡坐をかく
- いわゆるへき地医療に貢献できること(現在も時々代診をしています)
- 患者さんときちんと話しができる医師になってください。

## 本田 聡

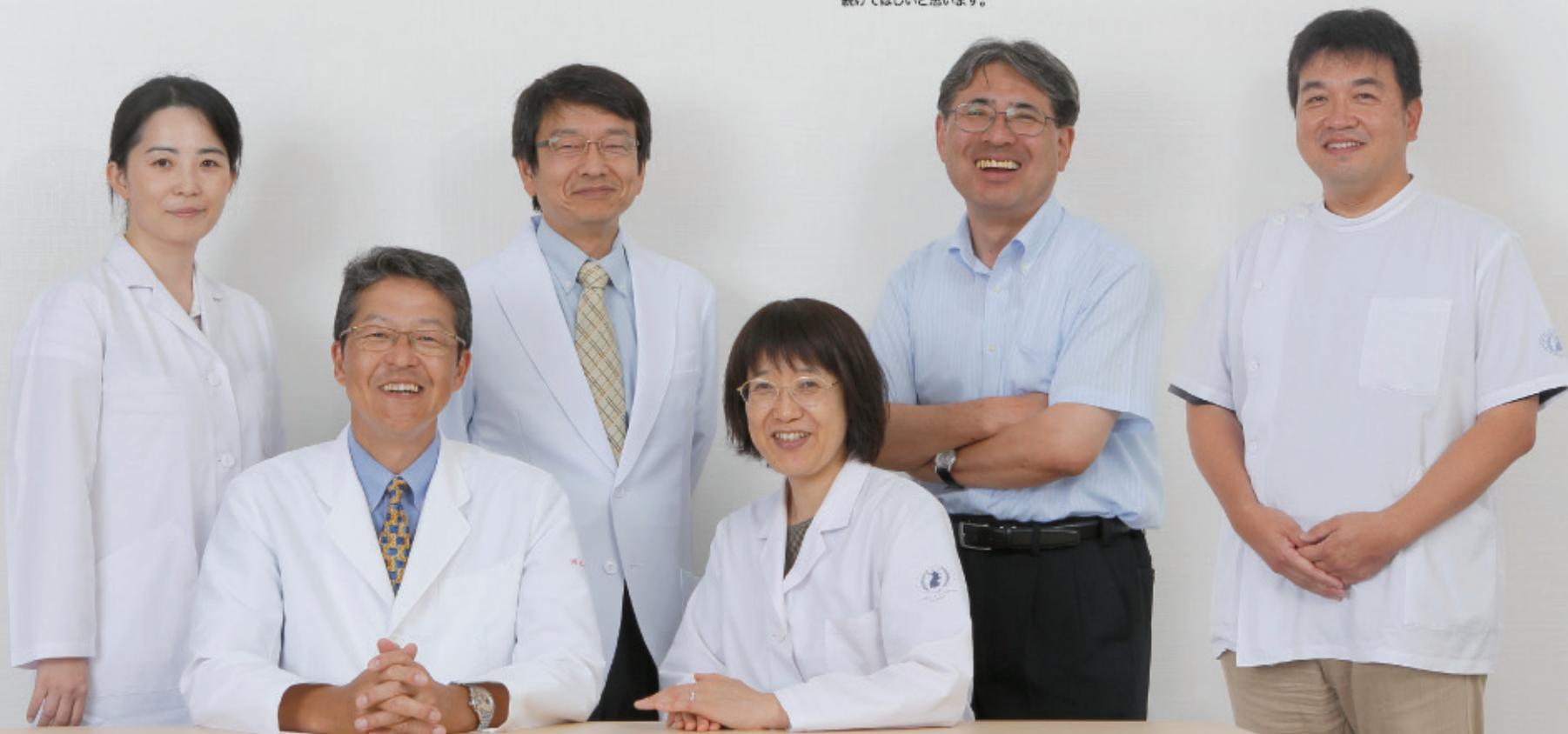
(鳥根大学総合医療学講座 大田総合医療育成センター泌尿器科・准教授)

鳥根医大卒、1995年鳥根大学大学院で、先輩医師に叱咤激励され、研究と泌尿器科医の見習いをして、地域の透析施設の管理を学びました。98年～徳研究会癌研究所実験病理部で腎癌の分子生物学的研究。2001年～鳥根大学病院泌尿器科の最前線でも多くの入院患者さんの診療に当たり、ベッドサイドで患者さんと話す時間を長く持つことを大事にしていました。05年～大田市立病院泌尿器科では癌を診療のメインと位置づけていましたが、癌以外の領域の大事さを学ぶことができました。07年～鳥根大学病院泌尿器科で病棟医長、外来医長を務めマネジメントの大事さを学びました。患者会活動を支援し、食事会等も毎年開いて、生の声を聞くようにしました。13年～鳥根大学総合医療学講座大田総合医療育成センター泌尿器科 准教授。これまでの経験を生かし、地域医療と総合医療に尽力していきます。

- 「聞き上手」? 外来が長引いて予約時間を過ぎてしまうことは反省点です。
- Door to doorで職場へ移動したい。現実的ですね。
- 患者さんとその家族に信頼されて、よりよい医療を提供できたとき
- ナンバーワンよりもオンリーワンの医師を目指そう。それぞれにやりたいことやできることは異なっていて当たり前だと思います。支援センターがサポートしますよ。

## 質問項目

- 最近何に夢中ですか
- 特技は何ですか
- どこでもドアがあったらどこで何をしたいですか
- チャームポイントは
- 自分の癖は
- 医師になって特にやりがいを感じたことは
- 後輩へのメッセージ



## 相談 窓口

医学生、医師、医療機関、市町村等の皆様へ

- ・キャリア支援
- ・ワークライフバランス支援
- ・研修、イベント情報
- ・しまねの医療状況
- ・しまねの病院、大学情報
- ・県や市町村の取組 等 あらゆる相談をお待ちしています。

お気軽にお問い合わせ下さい！



一般社団法人 しまね地域医療支援センター

島根大学医学部みらい棟1F

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

TEL 0853-25-8326(直通) FAX 0853-25-8361

島根大学医学部附属病院



広域地図

